

モード Mode は語る

中野 香織

6月のヨーロッパは連日30度超えだった。長ズボンが耐えがたい猛暑である。しかし職場や学校で、半ズボン禁止の服装規定のあるところは少なくない。

20世紀前半、赤道直下まで植民地に赴いた英国紳士は暑さに耐えかね半ズボン(バミューダショーツ)をはいたが、ひざ下はハイソックスで覆った。半ズボン+ハイソックス=長ズボンと見立てたのである。男性がひざ下の素肌をさらすことには強いタブー感があったのだ。

さて21世紀の若き紳士たちは、「半ズボン禁止」という学校の服装規定に対し、別の対抗手段に出た。英・エクセターの学校では、14歳の男子生徒たちが、友人

メンズスカート

装う自由 さらりとまとう

や姉妹の制服のスカートを着用して登校した。一方、フランスでは、半ズボン着用を禁じられたバスの運転手たちが、スカートをはいて抗議した。「女性運転手はスカートをはけるのに、男性に許されていないのは不公平」という主張だ。

モード界では、1980年代からすでにメンズスカートは提案されている。コム・デ・ギャルソン、ジャン＝ポール・ゴルティエらは、男性もスカートをはく自由と権利があるとばかり、「雄々しい」スカートを発表してきた。

近年も、ジバンシイ、ルイ・ヴィトン、ロエベなどがメンズスカートを登場させている。ジェンダーフリーの風が吹く現



トム・ブラウンもパリコレでドレスを発表した

代においては、むしろ声高に男性の自由と権利を主張しないほうがクールとばかり、ごくさりげなく。

先日のパリ・コレクションでは、トム・ブラウンが一步進んだ男性のスカートスタイルを発表した。なんと「ドレス」である。スーツ用の服地で作られた、ワンピース型の服である。トム・ブラウンは語る。「なぜ女性のプロポーションやディテールをメンズテーラリングに取り入れてはいけないのでしょうか？」

実は炎天下でもっとも快適に過ごせる服は1アイテムで完成するドレスであることを、私も経験的に知っている。

女性は1960年代に「男性と同等にパンツスーツで装う自由」を勝ち取った。そして今ようやく、男性もワンピースで装う自由と権利のために闘う時代が訪れている。(服飾史家)